



全労連青年部ニュース

YOUTH TOPIC

つながる・たたかう・支えあう青年部を

ホームページ<http://www.zenroren.gr.jp/jp/seinen/>ブログ<http://blogs.yahoo.co.jp/zenrourenpower>

全労連青年部とは??? 9単産19地方組織の青年部が集まって、青年労働者の声を集め、学習や最低賃金引き上げ、他の青年団体と一緒に雇用、核兵器廃絶・平和などの問題に取り組んでいる労働組合のナショナルセンターです。



ビキニの海を忘れない

2月27日から3日間、静岡及び焼津で2014年3・1ビキニデー日本原水協全国集会が行われ2400人が参加しました。多くの方が被ばくし、命を落としたビキニ被災から60周年の節目の年。全労連青年部、平和団体の青年とともに初めて参加する人のための第8分科会を運営、28日の夜には青年企画でどのようなことをやろうかと試行錯誤しながら準備しました。



全体集会

第8分科会「被災60年・ビキニ事件の全容説明と原水爆禁止のたたかい」

全体集会の後に行われた第8分科会では、静岡の青年の取り組み、三浦市職労の青年の話、高草木日本原水協代表理事の講演を聞き、その後グループ討論を行いました。日本原水協代表理事の高草木さんはビキニ事件後にどのようにして運動がおこってきたのか? また核兵器廃絶へ向けて唯一の被ばく国の日本だからこそ青年が立ちあがることで新しい平和の扉を開くものになる、と訴えました。(右写真 高草木日本原水協代表理事)



グループトーク

②自分にできる事は?

熊本から参加した青年は「大事なものは想像力。原爆の黒こげになる写真とかを見て、それを想像できれば核兵器のボタンをおすことはできない。核兵器の恐ろしさと廃絶の必要性をみんなにわかりやすく伝えることが大事」と発言しました。

①大事だと思ったことや疑問点

30歳の息子がいる母親は『「息子にビキニデーに行ってくるよ」と伝えると「何?水着の日?」という感じで、今まで何度も話をしていたのに…。生の声を伝える教育が大切だと感じた。長崎・広島・ビキニの被ばく者は被ばくの事実が言えなかったのでの福島の人も言えないのではないか。』



映像を見ている所

青年企画 はじめよう！核兵器廃絶アクション ～1年後のNPTに向けて～

2月28日夜に行われた Ring!Link!Zero 青年企画では静岡の青年や非核フィリピン連合のマラヤ・ファブロスさんの取り組みを聞きました。静岡の青年は2月15日(土)に15人の青年で取り組んだ「聞き取りプロジェクト」の報告をしました。

〈静岡の青年の話〉当時第五福竜丸の乗組員だった、池田正穂さんから話を聞きました。福島原発事故と自分の被ばく体験とも絡め、放射能がなくなって世の中が明るくなれば、とお話をされていたのがとても印象的でした。参加した青年からは「継承のために、こういった活動を積み重ねていくことが重要」「子どもたちにもしっかり伝えていきたい」などの感想が寄せられています。被爆者の方がご存命のうちに、私たち若い世代が多くの事を聞き、今後も語り継いでいける取り組みを続けていきたいと思えます。(右写真 静岡の青年)



その後、『日本で世論を広げるには何が出来るか』をテーマに話し合いをしました。



グループトーク

グループトークでは、「核兵器廃絶世論を広げるためにできるアクション」続いて、「アクションに踏み出すために必要なこと」について5分ずつ出し合いました。はじめのテーマでは携帯やFBなどの活用や署名・証言の聴き取り、平和行進への参加など思い思いの意見が出ました。九州からの参加者は、2人の子を持つパパでした。彼は、「パパ仲間で話していると福島の話ができることがある、そういった時に広げたい」と口火を切り、「チェルノブイリ原発事故後周辺で出産された奇形児を映像に収めたDVDを見た際には、自分の子どもと重ね合わせ、こんな事故

は絶対に起こしてはならない」と思ったと語りました。

後半の議論では、NPT再検討会議の話題を広げていこう、SNSで多くのことを拡散するためにも学習を旺盛に繰り広げよう、そして仲間と一緒に署名行動に参加しようと言われました。

墓参行進・墓前祭・3・1ピキニデー集会

ピキニ事件では全国で1000隻以上の漁船が被災しました。世界的にはどのくらいの船が被災しているかは定かではありません。日米両政府の密約により一定の賠償だけで多くの乗組員が補償されず生活をしてきました。3月1日には焼津駅前から第五福竜丸無線長を務め焼津港帰還後半年で亡くなった久保山さんの追悼墓参行進・墓前祭をしました。



墓参行進

集会のリレートークでは大学生が「学生には平和や非核という言葉はほど遠いものかも。当事者が周囲にいなければ他人事。被ばくの経験、戦争の経験は私たちと同じ一人の人間に起こったことです。戦争や被ばくを経験した人の話を聞ける最後の世代として体験者から多くの事を学び、経験者の思いを受け継ぎ一人ひとりが平和の取り組みに向かい対話を広げて行きたい」と発言しました。



ピキニデー集会